

大峯奥駈道整備に係る意見交換（応接録）

鳥羽局長から大峯奥駈道に係る地元行政機関と新宮山彦ぐる一ふ（以下、「山彦」という。）との意見交換の開催についての趣旨説明があった後、沖崎代表から現在の活動に至るまでの経緯を説明した。主な質疑応答は次のとおり。

赤木　　まだ本宮町だった平成14年に、世界遺産登録に向けて航空測量を行った上で、宝篋印塔から奈良県との県域については私有地がほとんどで、結構な距離もあり、かつ修験道ということで整備を行わないことと整理された。しかしながら、宝篋印塔から七越まではハイキングする方もおられるので看板を整備することとなった。当時、十津川村とも協議を行いました。そこで十津川村は石柱を設置することにされましたが、当方は石柱が文化財になりかねないという理由で、木製の看板にしたという経緯があります。

また、平成20年に山彦から田辺市に登山道の面倒を見てもらいたいというご要望をいただいております。多少なりとも整備はしてきました。ただし、大きな看板を付けることはできないため、小さなもので付け替えていくという方法となっておりますが、看板一つも許可が必要となります。

南　　新宮市は平成17年に熊野川町と合併しましたが、県の補助を使って、2か月に1回のパトロールを実施しています。ただし、看板の整備は行ってはいません。

鳥羽　　例えば、倒木が見つかった場合はどうしていますか。

安井　　ほぼ、こちらに連絡してもらおうことになると思う。しかし、私有地の場合、倒木1本とはいえ、すぐには処理できない。

沖崎　　行政が行うことは難しいと思う。おそらく常識の範疇というか、小さな看板を付けることぐらいが許容範囲ではないかと思う。

安井 かつては山主も地元が多かったが、世代が代わり都会へ出ている。これまでは許可を得ていなく処理したがため、裁判になると負けるので1本60万円支払ったという事例があります。

鳥羽 例えば、小さな看板は田辺市で付けることになりますか。

安井 グレーな部分なのですが、新たに大きな看板は付けられません。有志による小さな道標（みちしるべ）的なものはご厚意なので、黙認というか、ありがたいと思っています。ただし、正式には申請が必要となります

沖崎 山彦では4つの山小屋を管理しており、年間で約500人近い宿泊者がいます。山彦の活動を見て山の管理をしていると思われることもあり、クレームが山彦に入ることもあります。道迷いは目印をすれば90パーセントはなくなると考えています。これまでは行方不明者も出ていますし、ある方から「夫の携帯の登山のログが進まない」と心配で電話が架かってきたこともあります。また、携帯電話につながらないと心配になり、本人が知らないまま遭難扱いになった事例もあります。

要は、全体の管理をするところがないといけない。

安井 山彦ではボランティアに参加してもらう人をどういう方法で集めていますか。

沖崎 ホームページに行事予定を掲載しています。参加してくれる方は、地元新宮の者は少なく遠方の方が多いですが、根付くのは10人に1人くらいです。

鳥羽 やはり行政だけでは無理で、民間の力が必要ですね。

沖崎 実は、活動の中で死亡事故が2件起きています。このお二人には保険が出ましたが、それ以降は保険会社から断られています。山岳ボランティアの保険は個人で加入するのが基本なようです。確かに我々の活動では、チェーンソーも使いますし、土建屋みたいなところが多分にあります。

鳥羽 山彦としての公式な活動は、月に2回ほど行われていますね。

沖崎 行仙宿、持経宿、平治宿には月に1回程度、巡視に出かけていますが、高

齢化が進み全ルートの特検ができなくなったというのが現状です。とはいうものの、これまでには個人で、大森山にロープを付けてくれた方や地蔵岳に鎖を取り付けてくれた方がいます。

また、現実的な問題として、玉置神社で宿泊できないことが、大峯奥駈道を縦走される方のネックとなっています。

安井 大峯奥駈道は文化遺産ですが、自然の部分が多い。例えば、レンジャーのように知識のある方を2チーム、1週間でパトロールしてもらえるようにしてもらいたいと市に言ってきましたが、なかなか踏み切ってくれません。現場を預かっている者としては残念な思いをしています。また、中辺路の整備も高齢化が進み、地元のボランティアに頼るのも難しくなってきました。例えば、環境省に自然とマッチした整備の仕方など教えてもらえると良いと考えてはいますが。我々行政側も想いは同じでも、行政はとにかく時間がかかり、すぐにとりかかりたいと思ってもできない。

沖崎 世界遺産「吉野・大峯」地域連絡協議会という情報交換の場が年に1回行われていて、例えば、大日岳の切れた鎖場の改修はその場で議論されています。大峯奥駈道は修行の道であることを登山者にも知っていただきたいことから靡きの看板を山彦独自で設置しています。

安井 修行の道であることから高木(青岸渡寺)さんに頼めないだろうか。我々も小辺路の果無に行くのがだんだんときつくなってきました。

鳥羽 本日は、大峯奥駈道に係わる行政機関と民間団体(山彦)とのネットワーク構築のためにお集まりいただきました。特に、山彦には新宮市、下北山村、十津川村とはつながりがあるものの、田辺市とはこれまでつながりがなかったとお聞きしていました。まずは顔合わせの機会を作らせていただき、今後、行政の方としてはシンポジウムなどの場を設けることや、私は昨年、山彦の親睦会に参加させていただいたことがありますので、是非とも意見交換する機会などを双方で考えていただければと思います。